

地震防災対策（住民啓発・教育事業、民間住宅の耐震化の促進）

アナ： 「市長が語る 2015 三島」第19回の今日は、「地震防災対策」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 住民の皆さんに啓発している「地震防災対策」についてお聞かせください。

市長： 地震対策のテーマは「自らの命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」ですので、そのためには、各家庭で「建物の耐震化」、「家具の固定」、「水・食料等の備蓄」を積極的に進めていただきたいと思います。

アナ： 過去の大きな地震では、昭和56年5月以前の旧耐震基準で建てられた建物に多くの被害があったと聞いています。建物が倒壊すると、道路を塞ぎ、避難や救助の妨げになることが考えられますよね。旧耐震基準の住宅は、現在どのくらいあるのでしょうか。

市長： 現在6,400棟余りあると推計しています。昭和56年5月以前に建てられた住宅の耐震性を高めることが、地域の安全のためにも重要であると考え、木造住宅を対象として、建物の耐震化対策として3つの事業に取り組んでいます。

アナ： 具体的にはどのような事業でしょうか。

市長： 1つ目は、無料で専門家を派遣し、耐震診断を行う「わが家の専門家診断事業」、2つ目は、補強計画の作成費用を助成する「既存建築物耐震診断事業」、3つ目は、補強工事の費用を助成する「木造住宅耐震補強助成事業」となります。まず、「わが家の専門家診断」を電話やホームページで建築住宅課までお申し込みください。

アナ： 地震発生後も、わが家に住み続けられるように、昭和56年5月以前に建築された住宅にお住まいの人はぜひ申し込みをしていただきたいと思います。次に「家具の固定」についての取り組みにはどのようなものがありますか。

市長： 家具の転倒防止を啓発するため、自主防災組織等へ「家具転倒防止啓発パネル」の貸出しを本年度より実施しております。また、家具転倒防止器具の取り付けが困難な高齢者世帯等に対し、1世帯5品までを市が取り付けをする「家具転倒防止事業」を実施していますので危機管理課までお申し込みください。

アナ： 家具の固定方法を含む防災に関する実践的な講座が開催されると聞いたのですが、どのような講座ですか。

市長： それは「防災力アップ！人材育成講座」のことですね。この講座は10月3日・10日、11月7日・14日の計4回、いずれも土曜日の昼間約6時間開催し、会場は主に消防庁舎です。参加者の皆さんが地域に戻ってから、今度は地域の皆さんに伝えていけるような内容とし、会議室での机上の講座と目で見て体で覚えられるような実践的な研修を多く取り入れております。

アナ： 講座ではどのような話を聞くことができるのですか。

市長： テレビや雑誌等でも活躍をしている名古屋大学減災連携研究センター長の福和伸夫（ふくわ のぶお）先生に「巨大地震対策」をテーマに、また、静岡大学防災総合センター教授の牛山素行（うしやま もとゆき）先生に「最近の豪雨災害事例から学ぶこと」と題してお話しいただきます。

アナ： 目で見て体で覚えられるような実践的な研修はどのような内容ですか。

市長： 先ほど話題になりました家具の固定については、専門業者の説明後、参加者の皆さんに実際に体験していただきます。

また、「自らの地域は皆で守る」ため、重量物除去訓練や身近な食品用ラップ等を使用した救護方法の研修も実施します。さらには、災害時の避難所の運営は自主防災組織が行うことになるため、避難所内でのレイアウトづくり等も実施していただきたいと考えています。

アナ： 実際にやってみないとわからないことが多いので、貴重な体験になりそうですね。「防災力アップ！人材育成講座」の申し込みはどのようにすればいいですか。

市長： 8月31日までに危機管理課に電話、FAX、メールでお申し込みください。詳しくは、広報みしま8月1日号や市のホームページをご覧ください。

アナ： 私も、災害時に自分や家族、地域でできることをひとつでも多く学びたいと思いますので、申し込みをしようと思います。

最後に、水・食料備蓄について伺いたいと思います。豊岡市長、私たちはどのくらいの備蓄をすればいいのでしょうか。

市長： 南海トラフ巨大地震は広範囲で被災が予想されるため、7日分の備蓄をお願いします。乳児がいる世帯、高齢者世帯等必要なものも各家庭で異なりますので、各家庭の状況に応じた備蓄をお願いします。

アナ： 私も大地震に備え、大切な家族を守っていくため、今できることを実践していきたいと思います。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。